

【ポイント】

- ニセ電話と比較し、認知件数は少ないが被害額は約3倍を記録
- 上半期は投資詐欺、下半期はロマンス詐欺の被害が増加
- SNS型ロマンス詐欺のうち、手口の約9割が投資名目
- 1件当たりの被害額は1,000万円超
- SNS型投資・ロマンス詐欺における被害時の連絡方法の約9割がLINE

1 認知状況・被害額 ※ 千円以下は四捨五入

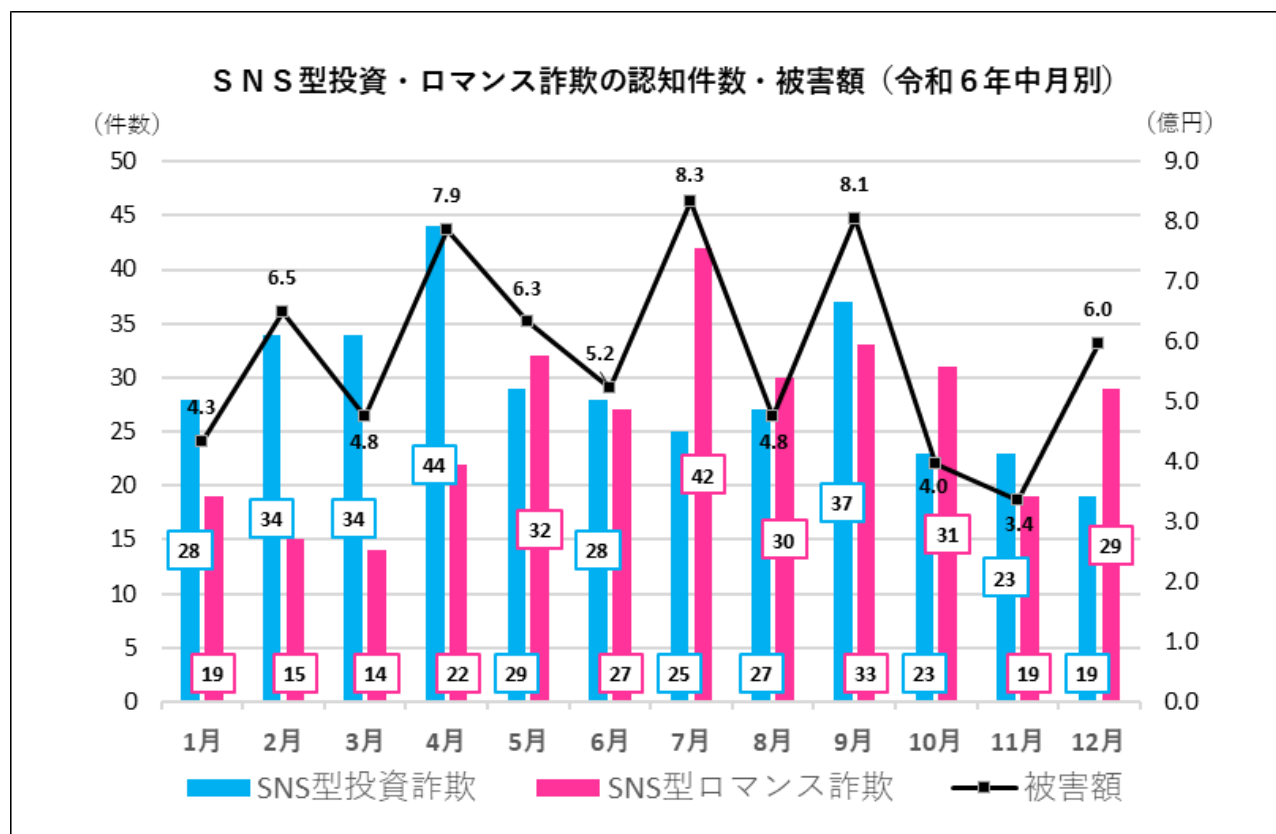
・ 認知件数 664件

(SNS型投資詐欺351件、SNS型ロマンス詐欺313件)

・ 被害額 69億4,147万円

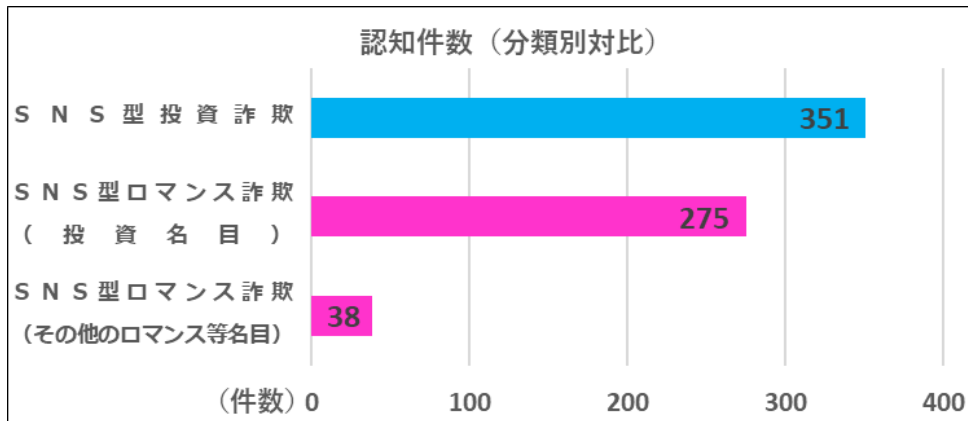
(SNS型投資詐欺40億2,215万円、SNS型ロマンス詐欺29億1,932万円)

2 令和6年中の被害の推移



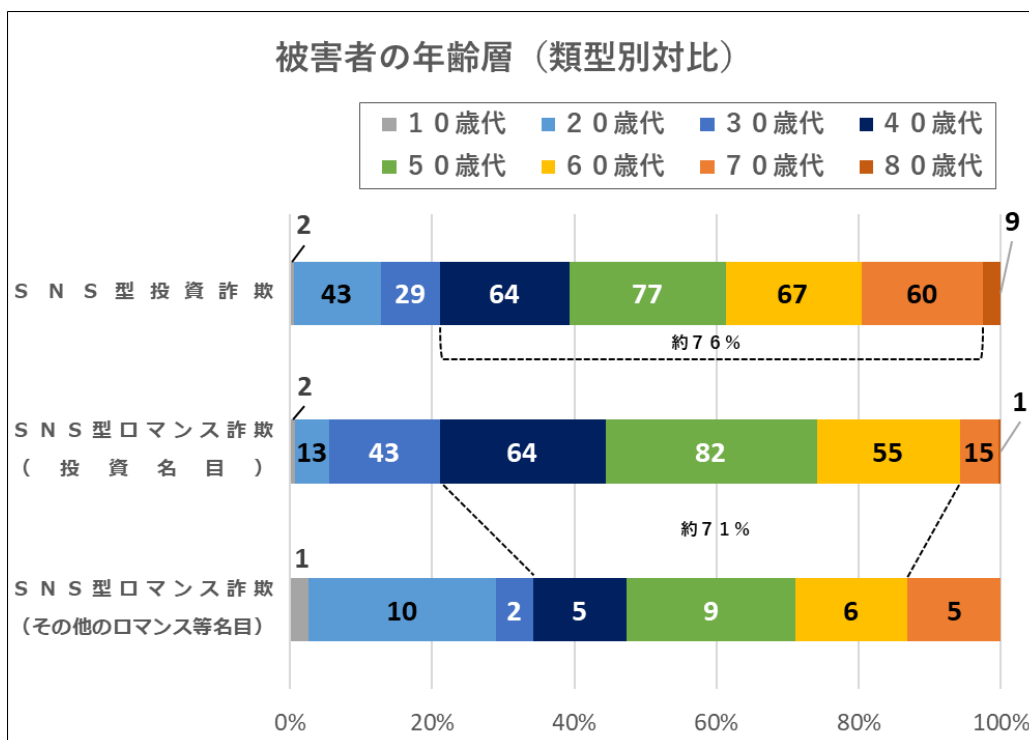
- ・ SNS型投資詐欺の認知件数は、SNS型ロマンス詐欺の約1.1倍
- ・ SNS型投資詐欺の被害額は、SNS型ロマンス詐欺の約1.4倍
- ・ 上半期はSNS型投資詐欺、下半期はSNS型ロマンス詐欺の発生が増加
- ・ SNS型投資・ロマンス詐欺の1件当たりの平均被害額は、約1,045万円
- ・ 1件当たりの平均被害額は、SNS型投資詐欺が約1,146万円、SNS型ロマンス詐欺が約933万円

3 分類別の対比



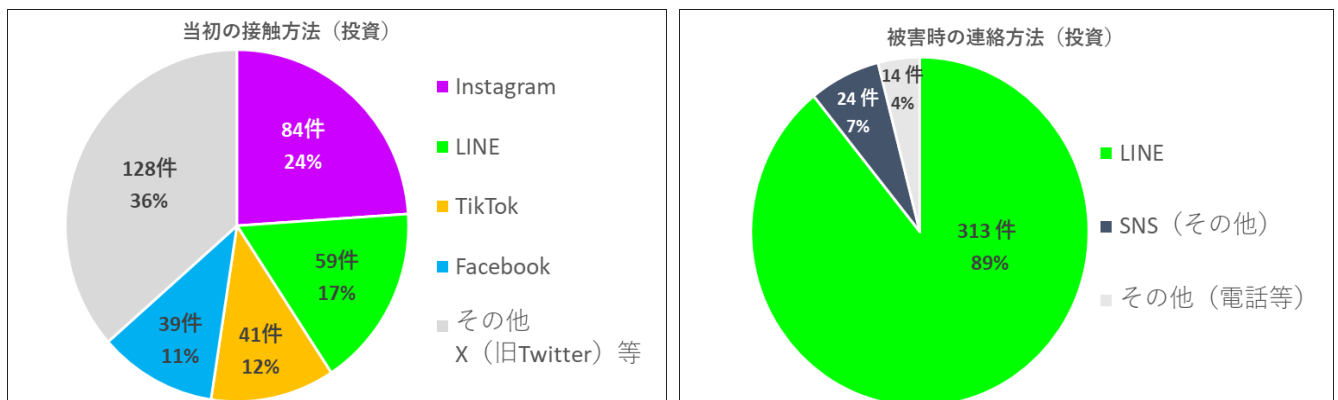
- ・ SNS型ロマンス詐欺のうち、投資名目が約9割

4 年代別の対比



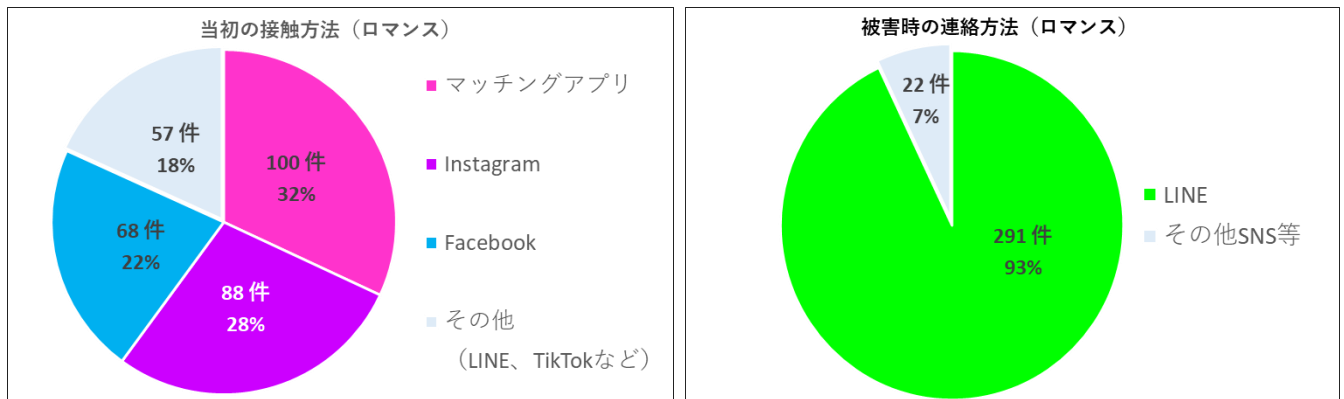
- ・ SNS型投資詐欺は幅広い年齢層に被害が波及
- ・ SNS型ロマンス詐欺は50歳代の割合が多く、40歳代から60歳代の年齢層で7割超

5 手口の傾向(SNS型投資詐欺)



- ・ 被害の入口となる接触方法(SNS等)は、Instagram、LINE、TikTok、Facebookで全体の6割以上
- ・ うその投資話等を持ち掛けられる被害時の連絡方法(SNS等)は、LINEが全体の約9割

6 手口の傾向(SNS型ロマンス詐欺)



- ・ 被害の入口となる接触方法(SNS等)は、マッチングアプリが全体の3割以上、InstagramとFacebookで約半数
- ・ だましの手口を受ける被害時の連絡方法は、LINEが全体の9割超

7 主な手口例～投資名目のSNS型ロマンス詐欺

① SNS等でのダイレクトメッセージ

マッチングアプリやFacebook、Instagram等のSNSを通じて異性等を装った者とダイレクトメールでやり取りを始める。

※ 外国語習得用のアプリ等を通じて、外国人名のアカウントを使用したり、帰国子女等を装った犯人とやり取りを始めるパターンも多い。

【具体的なだまし文句の例】

「韓国(外国)で事業をしている。日本に興味があり、あなたのことをもっと知りたい。」

② LINEでのやり取り

①のアカウントの者をQRコード等の方法で友だち追加して、LINEでのやり取りに誘導される。

③ 恋愛感情や親近感の惹起

LINEトークで毎日やり取りを重ねていくうちに、メッセージで好意を寄せられたり、結婚願望を匂わせる様な会話に発展し、被害者は犯人に対し恋愛感情を抱くなどして、話を信用してしまう。

※ トークのパターンとして、相互の顔写真を送信し合ったり、生活上の雑談を重ねた後に好意を伝えられるパターンが多い。

犯人は、本人ではない容姿端麗な顔写真等を使用し、だましているものと見られる。

④ 投資話等への誘導

しばらくの間トークを重ねると、相手から投資や副業の話を持ち掛けられる。

【具体的なだまし文句の例】

「ずっと投資(又は暗号資産)の取引をやってきており、上手くいっている。」

「近いうちに日本で一緒に暮らすため、将来に向けた資産運用をしよう。」

⑤ 投資の疑似アプリのダウンロード

犯人の指示により、投資アプリをダウンロードさせられる。

⑥ 金銭の振込等

犯人の指示により、投資資金等と称して指定の口座に数十万円単位の金額を振り込むよう指示される。振り込むと、⑤のアプリ上で利益が出ているように表示され、投資が成功しているものと誤信してしまう。投資資金を数回振り込んだ後、被害者が利益分を出金しようとすると、今度は出金のための所得税や口座管理代金名目に更なる金銭を要求してくる。

※ 振込先は、個人名義・法人名義の両方があり、名義人本人が使用しているものではない。

振込以外にも、暗号資産による資産運用と称して、被害者の資産を暗号資産に転化させた後、犯人側に送金させる手口も見られている。

8 阻止状況

○ 銀行員による阻止(SNS型投資詐欺)

阻止者は、窓口で高額を送金手続中の被害者に送金理由を聴取したところ、SNSで知り合った人物から株の購入を勧められて入金手続きをしていたことが判明したことから、上司に報告のうえ、警察に通報して被害を阻止したもの

○ 携帯電話ショップ従業員による阻止(SNS型ロマンス詐欺(その他名目))

阻止者は、被害者が携帯電話ショップを訪れて電子マネーカードのコード番号の送信方法を尋ねたため、不審に思い、警察に通報して被害を阻止したもの

なお、被害者は、SNSでやり取りする相手から「荷物を受け取る手伝いをしてほしい」「荷物の送料としてコンビニで電子マネーカードを購入して欲しい」などと言われ、コンビニで電子マネーカードを購入したもの

○ 保険会社職員による阻止(SNS型ロマンス詐欺(投資名目))

阻止者は、被害者が営業所を訪れ、「投資の解約をするのに税金を払わないといけない」等と申し出て自身の生命保険を流用し、その場で本人名義の銀行口座に振り込み、さらに「振り込みの証明として写真を送るよう言われた」「銀行から投資会社に振り込む」と申し立てたことから、不審に思い、支社に相談の上、警察に通報して被害を阻止したもの

被害者は、SNSでやり取りする相手から「老後一緒に過ごすために投資をしてお金を稼ごう」などと投資話を持ち掛けられ、指定された口座にお金を振り込んでいたが、現金の引き出しを申し出たところ、「税金として410万円を振り込む必要がある」と言われたことから、生命保険を一時流用しようとしたもの

9 検挙状況

(1) 総検挙人員 ※ 昨年から計上

7人【内訳:成人7人】

(2) 主な検挙事件

○ 久留米署

令和6年10月、外国人をかたったSNS型ロマンス詐欺事件に関し、被害金出金役の被疑者(出し子)を通常逮捕した。

○ 八幡西警察署・組織犯罪捜査課

県内で発生したSNS型投資詐欺事件に関し、被害金の受け皿口座を開設・調達し、詐欺グループに提供するなどのブローカー的役割を担う中国人グループを検挙した。